

子どもがお母さんに、「これおやつ？」と問い掛けると、お母さんは、小型化されたパンを食べながら「ごはん」と答える。納得できない子どもが、再度、「これ、ごはん？」と問い掛ける。母からは同じ答え、「ごはん」が返される。子どもも母の横に寝そべって二人でこのパンを齧る昼食風景である。ある食品メーカーのテレビコマーシャル・フィルムである。

確かにこの商品は栄養面では優れた食品であろうが、食事のもつ意味が全く無視されている。これは重大事と、早速、幼稚園児をもつ娘に電話すると、このフィルムをよく覚えていた。でも、「なにか変？」、「食の細い子をもつ親にとってはいいかもね」という答え。「食事シーンとしてどう思う？」というと、やっと「ちょっと、変かもね」である。若い女性に同じ質問をすると、今度も「何かおかしいですか？」である。入院している小学6年生の女の子は、「ああ、あのパンのコマーシャルか」とよく知っており、「どう思う？」と尋ねると、少し考えて、「学校で習うこととは違うけどな」とくる。

食事は行儀よく座って食べるから食事であり、「おやつ」とは違うのである。幼稚園児のほうが成人女性よりも、食事マナーを身に着けているとは皮肉である。コマーシャル・フィルムを作る方もだが、それをおかしいと思わない方がもっと深刻である。いずれ、人間の食事はすべて宇宙食となるのであろうか？当分の間は食事マナーを大切にしてほしいものだ。